

2020年10月4日 礼拝説教要旨

詩編講解説教33「世界は主の慈しみに満ちている」

詩編33：1～7、ヤコブ5：7～11

宗教改革者カルヴァンは、詩編の注解書の中でこの第33編について、この詩編の作者は、神をほめたたえるように、信仰者を励ますことを願ってこの詩を書いたと記しています。時にわたしたちは神さまを讃えることができなくなります。試練や逆境に立たされた時、わたしたちは讃美の歌も祈りの言葉も口に出てきません。ヨブが試練にあった時、妻はヨブに「神を呪って死になさい」と言いました。ヨブは神さまを呪うことはしませんでした、「わたしの生まれた日は消えうせよ」(3：3)と自分の生まれた日を呪いました。こんな人生なら生まれてこなければよかった。わたしたちもそういう心境に追い込まれることがあるかもしれません。

このコロナ禍も影響していると思われませんが、自ら死を選ぶ人が増えています。先週も一人の女優さんが自ら命を絶しました。華々しい芸能界ですら、いやその華々しさの陰で実は多くの人たちが生き悩んでいるのかもしれません。仕事をしている時はそれなりに充実している。しかし一人になった時、ふと我に返った時に例えようなない恐れと不安にかられる。先行きの見えない、深い闇のようなものに世界中が包まれているように感じるのです。こんな毎日が永遠に続くとしたら、それこそ人生早く終わりにしたいと考えて当然かもしれません。

けれども神さまはそのような思いにさせるためにわたしたちを造られたのでしょうか。自分の人生に絶望し、呪いの言葉を口にするためにわたしたちは造られたのか。もちろんそうではありません。「主を賛美することは正しい人にふさわしい」(1節)とあります。神さまを賛美することこそふさわしい。そのために人間は造られたのだと聖書は語ります。神さまを礼拝すること、そこにわたしたちの人生の目的があり、存在理由がある。そこさえ見失わなければどのような試練があっても大丈夫なのです。

4節以下には、天地創造の御業が語られています。ここで重要なことは御言葉による創造ということです。「主の御言葉は正しく、御業はすべて真実」御言葉と御業がセットに出てきます。神さまの言葉は言葉だけで終わるものではありません。それは御業、行為と結びつきます。有言実行と言いますが、神さまの言葉はその通りになります。天地創造の物語でも、「光あれ」と言われて光があり、「大空あれ」と言われて大空が造られます。神さまのご意志が形となって表わされるのです。そこに神さまの真実があります。そしてその真実がはっきりした形で表わされたのがイエス・キリストの出来事です。ヨハネ福音書に「言は肉となってわたしたちの間に宿られた」(1：14)とあります。神さまの御意志はイエス・キリストという形をとって表わされました。その事実を知る時に、わたしたちはどんなに世の中が暗く、希望が持てないような現実に直面しているとしても神さまの救いをなお確信して歩むことができるのです。

そしてそのことをさらに強調する言葉が5節の「地は主の慈しみに満ちている」という言葉です。この慈しみ(ヘセド)という言葉は、これまでも何度か出てきましたが、旧約聖書では重要な言葉の一つですからぜひ覚えてください。それは人間の側の状態に関わらず、決して変わることはない神さまの約束のことです。例えばイザヤ書には次のような御言葉があります。「山が移り、丘が揺らぐこともあろう。しかし、わたしの慈しみはあなたから移らず、わたしの結ぶ平和の契約が揺らぐことはない」とあなたを憐れむ主は言われる」(54：10)わたしたちが

強い信仰で約束を守るというのではない。わたしたちは揺らぎうつろうのです。けれども神さまの方が約束を貫いてくださる。この契約は言うまでもなくイエス・キリストによって新しく更新され、その救いの効力は何ら変わることなく最後の完成に向かいます。

そしてその最後の完成こそ、1～3節にあるような神さまをほめたたえ、礼拝することなのでしょう。その完成に向かって神さまが導いてくださるのです。そのような恵みに牽引されてわたしたちの人生は進むのです。そしてその最後の完成を唯一この地上で垣間見ることができる場所が教会であり、今わたしたちがささげている礼拝なのです。礼拝を続けることで、わたしたちはこの世の荒波を乗り越えていくことができます。

7節「主は大海の水をせき止め、深淵の水を倉に納められた」面白い表現です。「深淵」というのは直訳すると「たくさんの水」ということです。「水」というのは天地創造の物語にある混沌、カオスと捉えることもできます。それはまさしく收拾がつかない状況のことです。わたしたちの人生も時に收拾がつかないことがあります。でもその状況を神さまは倉に納められる。わたしたちは收拾できないことも、神さまはもっと広い御手を持って、その混沌をも支配されるのです。そういう神さまの御手の中で人生は完成へと進むということをわたしたちは忘れてはなりません。

世界はまさに混沌としています。これだけを見ているならわたしたちには希望はないでしょう。混沌が世界を満たしているように感じる。絶望して自暴自棄になってしまう。でもわたしたちがそうならないのは、神さまの慈しみ（ヘセド）を信じているからです。ヤコブ書に「あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです」（5：11）とあります。主が最後にどのようにしてくださったかを知っている。この最後の完成を知っていることが、今の試練に耐え忍ぶ力になります。決して混沌が世界を満たしているのではない。神さまの変わらない慈しみが世界に満ちているとわたしたちは信じています。